

～ 健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2021 June vol. **63** 発行人/武井 典子 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

オンラインによる歯科衛生推進フォーラムが開催される

令和3年2月14日(日)、日本歯科衛生士会会議室を本部とし、令和2年度の歯科衛生推進フォーラムが開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、はじめてのオンライン開催となったが、全国から172名(都道府県会会長他92名、自由参加者51名、関係者等24名、報道5名)が参加し、順調に進められた。

はじめに、茂木美保副会長より、「本フォーラムは、保健医療福祉の動向に伴う歯科保健医療ニーズの変化に対応し、効果的な歯科衛生活動を実践するため、地域歯科衛生活動における指導者等の育成を図ることを目的としている。実りあるフォーラムになるようお願いしたい」と挨拶があった。続いて、来賓の厚生労働省医政局歯科保健課田口円裕課長から、「従来の歯科診療所での対応に加え、地域包括ケアシステムでは在宅等において口腔機能の維持管理が求められる。また、コロナ禍の新しい日常を支える役割においても歯科衛生士の活躍が期待されている」とご挨拶があり、引き続き「歯科保健医療の動向」についてご講演い



田口円裕課長

たいただいた。講演では、2040年を展望し、だれもが長く元気に活躍できる社会を目指すための政策課題として、①多様な就労・社会参加、②健康寿命の延伸、③医療・福祉サービス改革について解説され、今後の歯科保健医療の提供体制の在り方や新型コロナウイルス感染症に伴う医療関連の財政措置等の支援などの情報提供がなされた。最後に、歯科衛生士の人材確保の重要性について説明され、厚生労働省の「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」の展望について述べられた。

続いて、歯科衛生推進委員会から、新型コロナウイルス感染症に対応した「新たな日常を支える委員会の活動」について、病院委員会・診療所委員会(武藤智美常務理事)、地域歯科保健委員会(小前みどり理事)、教育養成委員会(関口洋子理事)、在宅・施設口腔健康管理委員会(山口朱見常務理事)、災害歯科保健委員会(久保山裕子常務理事)から、取り組みがそれぞれに報告され、活発な質疑応答の後、閉会となった。



茂木美保副会長

都道府県歯科衛生士会会会長会 オンラインで開催

「令和2年度 都道府県歯科衛生士会会会長会」が「歯科衛生推進フォーラム」の終了後、引き続き行われ、出席者70名(都道府県会会長47名、関係者23名)での開催となった。はじめに、武井典子会長より「令和2年度は、新型コロナ感染症拡大により、研修会や学術活動などの事業の中止またはWebでの開催、学術大会の誌上開催などを余儀なくされた。今年度は新人歯科衛生士の育成プログラムを改定した。新人だけでなく入職2~3年の離職防止につながるものとする。会員拡大を含めた、コロナ禍でも負けない事業計画を立案するため建設的な情報交換をお願いしたい」と挨拶があり、下記の事項について協議が行われた。

(1) 令和3年度事業計画の概要について、(2) 令和3年度の生涯研修の進め方について、(3) 令和3年度「ブロック連絡協議会」実施要領について、(4) 入会案内について、担当理事からそれぞれ説明が行われた。「生涯研修の進め方について」では、第5次生涯研修制度実施要綱の一部改正を行い、将来eラーニング研修を位置づけるための過渡期であるとし、また、「ブロック連絡協議会実施要領」では、コロナ感染症拡大や天災その他やむを得ない事由が生じた場合は、特例として縮小開催またはWeb開催することができるとした。「入会案内」の中では、入会促進の動画を作成し、全国で活躍する歯科衛生士のいきいきとした声や歯科衛生士会の活発な活動を伝えることで、歯科衛生士会の見える化を図り、また、新人育成プログラムや生涯研修のPRに活用し、会員拡大、組織強化を図っていく方針が出された。引き続き報告事項に入り、(1) 令和3年度厚生労働省歯科関連予算について、(2) COVID-19に対応した会員への研修支援について、(3) 「ブロック連絡協議会運営規則」の改正について、(4) 令和元年度「地域歯科保健実施状況調査報告」、(5) 歯科衛生士賠償責任保険制度総合生活保険のご案内、その他の報告がなされ、閉会した。



本部から配信された

令和3年度介護報酬改定のポイント(歯科衛生士関連)

介護報酬改定は3年に1度行われ、令和3年度の介護報酬改定の歯科衛生士関連項目では「医療と介護の連携の推進」「リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化」「介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進」などにおいて見直しが行われた。

居宅療養管理指導 <歯科衛生士が行う場合>

	(改定前)	(改定後)
(1) 単一建物居住者1人に対して行う場合	356単位	→ 361単位
(2) 単一建物居住者2人以上9人以下に対して行う場合	324単位	→ 325単位
(3) (1)及び(2)以外の場合	296単位	→ 294単位

*歯科疾患在宅療養管理料(医療)の様式を踏まえた新たな様式が設定された。(別紙様式3歯科衛生士による居宅療養管理指導に係るスクリーニング・アセスメント・管理指導計画)は下記のQRコードからダウンロードできます。居宅要介護者の社会生活面の課題にも目を向け、地域社会における様々な支援へとつながるよう、関連職種との連携に関する事項の記載欄を設定。

口腔衛生管理体制加算

介護老人福祉施設／介護老人保健施設／介護療養型医療施設／介護医療院／地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

口腔衛生管理体制加算 **30単位/月(廃止)**

特定施設入居者生活介護／地域密着型特定施設入居者生活介護／認知症対応型共同生活介護

口腔衛生管理体制加算 **30単位/月(継続)**

口腔衛生管理加算

介護福祉施設／介護保健施設／介護療養施設／介護医療院／地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

口腔衛生管理加算(I) → **90単位/月(継続)**

口腔衛生管理加算(II) → **110単位/月(新設)★**

★科学的介護情報システム(LIFE)を使用し、情報を厚生労働省に提出した場合に(II)が算定できる

口腔・栄養スクリーニング加算 <介護職員等が行う>

介護職員等による口腔スクリーニングの実施を新たに評価する観点から、現行の栄養スクリーニング加算が口腔・栄養スクリーニング加算に改定された。(6か月ごとに算定可)

通所介護／地域密着型通所介護／通所リハビリテーション／介護予防通所リハビリテーション／認知症対応型通所介護／介護予防認知症対応型通所介護／特定施設入居者生活介護／介護予防特定施設入居者生活介護／地域密着型特定施設入居者生活介護／小規模多機能型居宅介護／介護予防小規模多機能型居宅介護／看護小規模多機能型居宅介護／認知症対応型共同生活介護／介護予防認知症対応型共同生活介護

口腔・栄養スクリーニング加算(I) **20単位/回(新設)**

口腔・栄養スクリーニング加算(II) **5単位/回(新設)※**

※栄養アセスメント加算、栄養改善加算又は口腔機能向上加算を算定しており加算(I)を算定できない場合にのみ算定可

口腔機能向上加算

通所介護／通所リハビリテーション／地域密着型通所介護／認知症対応型通所介護

口腔機能向上加算(I) **150単位/月 名称変更(現行の口腔機能向上加算と同じ)**

口腔機能向上加算(II) **160単位/月(新設)★**

★科学的介護情報システム(LIFE)を使用し、情報を厚生労働省に提出した場合に(II)が算定できる

*令和3年度介護報酬改定について下記のURLまたはQRコードからご覧になれます

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00034.html



令和3年度 認定歯科衛生士セミナープログラム

生活習慣病予防 (特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)コース

日程 9月下旬 オンライン研修

10月9日(土) 集合型研修

開催地 東京都 受講料 30,000円

医療保険者の特定健診・特定保健指導の実施に伴い、特定保健指導の実施者に必要とされる厚生労働大臣が定める「食生活改善指導担当者研修プログラム」に基づいて実施される。本コース修了者は、食生活の改善指導に関する専門知識及び技術を有するものと認められ、医師・保健師・管理栄養士の統括管理者が作成した支援計画に基づく特定保健指導の実施者となることができる。

	研修項目	研修内容
1	健康づくり施策概論	1 社会環境の変化と健康課題 2 健康づくり施策 3 生活習慣病とその予防
2	生活指導およびメンタルヘルスケア	1 生活指導と健康に影響する生活環境因子 2 個人の健康課題への対処行動(保健行動) 3 ストレスとその関連疾患およびストレスへの気づきへの援助 4 個別・集団の接近技法 5 ライフステージ・健康レベル別健康課題と生活指導
3	栄養指導	1 栄養・食生活の基礎知識及び今日的課題と対策 2 食行動変容と栄養教育 食生活改善指導者の役割 3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育
4	健康教育	1 健康教育の理念と方法 2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法 3 メタボリックシンドロームに対する健康教育 禁煙支援プログラムの基礎と実践 4 メタボリックシンドロームと口腔保健
5	運動の基礎科学	運動と健康のかかわり
6	研究討議	まとめ メタボリックシンドローム関連

摂食嚥下リハビリテーションコース

日程 9月下旬 オンライン研修

10月10日(日) 集合型研修

開催地 東京都 受講料 35,000円

摂食嚥下の評価および障害等に関する知識や技術、年代別・病態別等の摂食嚥下障害への対応、栄養・構音機能・呼吸管理など、多職種連携による摂食嚥下リハビリテーションの実践に必要とされる知識・技術を習得する。日本摂食嚥下リハビリテーション学会との協力により実施される。

	研修項目	研修内容
1	リハビリテーション総論	1 リハビリテーション医学とは 2 運動学習とは 3 摂食嚥下の運動学
2	リスクマネジメント・全身管理	1 全身状態の把握と対応 2 バイタルサインのチェック
3	摂食嚥下機能のメカニズム	1 摂食嚥下のメカニズム 2 嚥下中枢機構の構造と機能 3 脳と神経支配の構造と機能

4	咬合および咀嚼機能の評価と管理	1 咬合と咀嚼運動 2 咀嚼運動の解剖・生理 3 咀嚼機能の低下の要因 4 咀嚼・嚥下機能と咬合支持の関係性 5 咀嚼の機能低下による全身への影響
5	栄養管理	1 栄養ケアマネジメント 2 栄養摂取方法・補助栄養法 3 食事形態 4 嚥下調整食とは 5 栄養サポートチーム(NST)の概念
6	摂食嚥下の評価	1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法 3 頸部聴診法 4 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査 5 まとめ
7 ①	病態別摂食嚥下障害(小児の摂食嚥下障害)	1 小児の口腔形態 2 正常発達と口腔機能の獲得 3 小児の摂食嚥下障害
7 ②	病態別摂食嚥下障害(中途障害の摂食嚥下障害)	1 頭頸部外科手術 2 歯科的対応 3 頭頸部がんの放射線治療後の摂食嚥下障害の病態 4 脳血管障害、高次脳機能障害、神経筋疾患
8	摂食嚥下障害者への口腔管理の制度の理解	1 摂食機能障害者に関する制度の理解 2 医療保険、介護保険制度と口腔管理の実際
9	食事外部観察評価	1 維持期における摂食嚥下機能低下の原因とリスクおよびその対応 2 摂食時の外部観察評価 3 その外部観察評価における問題点の抽出、分析および対応法 4 演習
10 ①	リスクマネジメント(呼吸管理と肺理学)	1 呼吸器の解剖と生理 2 アセスメント方法 3 呼吸法 4 呼吸筋ストレッチ 5 徒手呼吸助法 6 体位ドレーナージ 7 気道管理(気管カニューレなど)と外科処置
10 ②	リスクマネジメント(経鼻吸引)	1 経鼻吸引 2 演習
11	摂食嚥下訓練	1 摂食嚥下障害に対する訓練計画立案、食指導 2 各病態に対する訓練法とその選択 3 演習
12	問題解決過程の実践	1 歯科衛生士の視点とは 2 問題解決過程の概要 3 演習 4 フィードバックと模範解答

在宅療養指導・口腔機能管理コース

日程 9月下旬 オンライン研修

10月9日(土)・10日(日) 集合型研修

開催地 東京都 受講料 40,000円

地域包括システムが推進される中、歯科医療の提供体制も従来の歯科診療所における外来患者中心の「歯科完結型」から、今後は「地域完結型」へと変化し、地域でのきめ細やかな歯科保健医療の提供が求められている。そこで多職種と連携し、「口腔機能管理」の専門

家として知識と技術を習得し、実務研修へとつなげる。セミナー受講後に所定の施設実習または勤務先での実務経験が加わる。日本老年歯科医学会との連携により実施される。

研修項目	研修内容
1 超高齢社会の現状	1 高齢者を取り巻く環境 2 身体と精神面の特徴 3 医療と介護 4 認知症症状と分類 5 口腔機能管理が求められる理由
2 咬合と咀嚼	1 咬合に起因する病態 2 咀嚼の解剖学的・生理学的基礎 3 食塊形成への理解
3 高齢者の全身疾患(評価と対応)	1 リスク評価の重要性 2 全身状態の把握と対応 3 精神疾患(認知症)への対応 4 照会状の書き方 5 診療情報提供書の読み方 6 全身疾患と検査値との関連
4 栄養サポート	栄養サポートのシミュレーション実習 ①口腔機能を評価する ②食支援の具体策を作る ③栄養サポートのまとめ(地域包括ケアシステムのなかでの歯科)
5 口腔機能低下症	1 オーラルフレイルと口腔機能低下症 2 口腔内微生物叢 3 高齢者の口臭
6 実践例の紹介	実践例紹介 ①介護予防 ②ミールラウンド ③施設・居宅における支援等
7 終末期への対応	1 看取りの考え方 2 歯科衛生士の役割
8 医療と介護の連携	1 多職種連携の実態 2 在宅療養者の環境把握 3 地域包括ケアシステムについて
9 咬合と咀嚼の評価	1 咬合の観察と分類(演習:アイヒナー分類) 2 咀嚼の客観的評価法 ①咀嚼と食塊形成(せんべい) ②混和能力の評価(ガム咀嚼) ③グミゼリー ④咀嚼スコア
10 計測器を使った評価法	1 舌圧計 2 口腔水分計 3 ガムテスト
11 唾液	1 サクソン法(便法)による計測 2 唾液の成分 3 成分ごとの働き 4 唾液不足から表れる事 5 歯科衛生士の役割
12 発音(構音)の諸器官・組織	1 発音(構音)時の各組織と器官の関わり 2 発音による評価(オーラルディアドコネシス)
13 在宅療養者への歯科衛生士としての介入	グループワーク 1 状況設定(症例検討題材:脳梗塞後、認知症、がん末期、神経性難病、糖尿病、心臓病、呼吸器疾患等) 2 問題点の抽出(KJ法) 3 介入法の検討

糖尿病予防指導コース

日程 10月 オンライン研修
11月6日(土)・7日(日) 集合型(オンライン研修に変更もあり)
開催地 徳島市 受講料 35,000円
糖尿病予防の口腔保健指導および管理にかかる専門的な知識・技能の習得に資する研修を実施し、地域社会に貢献できる医学的・歯学的知識と口腔保健学的技能を有する歯科衛生士を養成する。徳島大学歯学部との協力により実施。

研修項目	研修内容
1	オリエンテーション 1 アイスブレイク 2 糖尿病とその予防で学習したいこと
2	ペリオドンタル・メディシン
3	糖尿病の基礎知識
4	糖尿病臨床の実際
5	国民健康の疫学 - 糖尿病予防の目的と必要性 -
6	糖尿病と歯周病の関連性
7	学校保健と糖尿病予防
8	地域歯科医療における糖尿病予防 - 多職種連携における糖尿病予防 -
9	糖尿病予防の指導と管理 1 糖尿病予防の栄養指導と管理 2 糖尿病予防の運動指導と管理 3 糖尿病予防の口腔保健指導と管理
10	歯科衛生士による保健指導 1 歯科衛生士による口腔保健指導(1) 2 歯科衛生士による口腔保健指導(2)
11	糖尿病予防の保健指導と管理 1 糖尿病療養の保健指導と管理 2 糖尿病療養の口腔保健指導と管理
12	糖尿病療養管理の視点を予防に役立てる 1 カンパセーションマップ 2 療養指導カードシステム
13	教育講演 成人歯科健康診査「生活歯援プログラム」

医科歯科連携・口腔機能管理コース

日程 前期 7月中旬~8月上旬 オンライン研修
後期 8月16日(月)・17日(火) 集合型研修
8月23日(月)・24日(火) 集合型研修
8月30日(月)・31日(火) 集合型研修
※後期は各班6~7名、3班に分けて実施予定
開催地 市川市 受講料 55,000円

急性期・回復期等の口腔機能管理にかかる専門的な知識・技能の習得に資する研修を実施し、総合病院における多職種連携に必要な医学的知識を有する歯科衛生士を養成する。東京歯科大学に委託実施。

研修項目	研修内容
1 ガイダンス	認定研修の概要
2 周術期に関する講義	1 総論 - 病院歯科の役割 - 2 病院における口腔機能管理に必要な基本的知識 3 がん患者の周術期管理(外科の立場から) 4 脳卒中患者の口腔機能管理 5 周術期口腔機能管理の制度と医科歯科連携 6 周術期口腔機能管理の実際~歯科衛生士の立場から 7 緩和ケア~看護師の立場から 8 化学療法と有害事象~薬剤師の立場から 9 放射線療法と有害事象~医学物理士の立場から
3 周術期口腔機能管理の演習	1 症例検討(グループワーク) 2 吸引・呼吸音聴診実習
4 臨床研究	1 臨床研究の進め方 2 研究方法
5 周術期口腔機能管理の見学実習(東京歯科大学市川総合病院)	1 歯科・口腔外科での周術期口腔機能管理見学実習 2 東京歯科大学口腔がんセンターの見学実習 3 病棟での口腔管理見学実習
6 医科歯科連携見学実習	NST(栄養サポートチーム)回診見学実習

歯科医療安全管理コース

日 程 8月下旬～9月初旬 オンライン研修
9月4日(土)・5日(日) オンライン研修(ライブ配信)

受講料 35,000円

医療連携、多職種連携に対応し歯科医療機関における歯科医療安全管理体制の確立に向けて高度・総合的な業務実践・指導技術を有する歯科衛生士を養成する。広島大学歯学部にて委託実施。

研修内容	
1	感染予防対策総論 感染予防対策の概論など
2	歯科医療における標準予防策の具体的方法 1 標準予防策の基本的考え方と歯科医療 2 オーデットについて
3	歯科医療の環境整備・医療廃棄物の取扱い 1 ユニットチェアサイドの環境整備 2 水の管理 3 医療廃棄物の取扱い 4 針刺し・粘膜曝露等職業感染の考え方
4	歯科医療器具の洗浄、消毒、滅菌の総論 洗浄、消毒、滅菌の総論
5	病院、歯科診療所での感染予防対策の実際 病院・歯科診療所における実践方法
6	院内感染対策で重要な微生物 1 院内感染対策で重要な細菌、ウイルス 2 薬剤耐性菌 3 AMRアクションプラン
7	COVID-19の基礎知識と感染予防対策について COVID-19の基礎知識と感染予防対策
8	標準感染予防策の実際 1 手指衛生(手洗い・手指消毒) 2 個人防護具(PPE)、ラッピング等診療室での実際
9	医療安全対策総論 1 医療安全管理体制構築の指針 2 ヒューマンエラーと医療事故
10	歯科衛生士のリスクマネジメントプロセス 診療現場における歯科衛生士のリスクマネジメントプロセスの実際

11	歯科衛生士が起こしやすいインシデントの対応予防策 事例から学ぶ具体的予防策・対応方法
12	レジリエンス・エンジニアリングと医療安全 レジリエンス・エンジニアリングと医療安全を学ぶ
13	周術期口腔ケア、訪問診療の医療安全対策 1 周術期口腔ケア、ICU、点滴回路 2 訪問診療における予防対策(誤嚥、誤飲、転倒、転落など) 3 ICU、点滴回路等
14	口腔外科手術時の医療安全対策 1 口腔外科手術での偶発症対策 2 インフォームドコンセント
15	医薬品、医療機器の安全管理方法 1 医薬品管理(数量、期限など) 2 薬剤の知識(処方箋、禁忌など) 3 機材管理(モニター、AEDなど)
16	医療情報、個人情報の管理と実際 1 医療情報、個人・診療情報の規定 2 医療安全としてのカルテ記載方法 3 カルテや患者情報の取り扱い方
17	歯科で起こりやすい患者急変時の対応と予防策 1 デンタルショック、過換気症候群、アナフィラキシーショックの違い 2 誤飲などの緊急対応法 3 救急薬剤、救急器材 4 モニターの見方 5 小児への対応 6 BLSの実際
18	臨床現場における医療安全(感染含)対策演習 1 アイスブレイク 2 グループ討論 3 各グループからの発表 4 フィードバック
19	感染防止対策に関する演習 1 テーマ別のオーデット作成 2 各グループからの発表 3 フィードバック
20	事例から学ぶ医療安全対策演習 1 実際の事例について対応策・予防策を討論 2 各グループからの発表 3 フィードバック

日本歯科衛生学会 第16回学術大会 参加登録のご案内

第16回学術大会は、令和3(2021)年9月18日(土)～30日(木)の期間、オンデマンド配信によるWeb開催となります。詳細は「日本歯科衛生学会雑誌Vol.16 No.1(8月発行)」および大会ホームページをご参照ください。

参加登録は、インターネットでの登録のみとなります。郵便振替での登録はございません。登録期間は、7月1日(木)から9月1日(水)までの事前登録のみとなり、会期中の参加登録はございませんのでご注意ください。

学生会員含む学生の参加方法については、大会ホームページでご案内いたします。

事前登録期間：令和3年7月1日(木)10時～9月1日(水)10時

参加費用：会員 7,000円 会員外 12,000円 ※別途システム手数料がかかります。

【登録方法】

日本歯科衛生学会第16回学術大会ホームページ内の「参加登録ページ」からお手続きください。クレジットカード払いはまたはコンビニ払いがご利用いただけます。

<https://jsdhm.jdha.or.jp/16th/>

※パソコン、スマートフォンから24時間登録可能です。



【注意事項】

- 令和3年度の会費が未納の方は、会員としての取り扱いはできませんのでご注意ください。
- 登録後の変更、キャンセルは一切お受けできません。納入された参加費は理由を問わず返金いたしません。

問い合わせ先

日本歯科衛生学会事務局 E-Mail:gakkai@jdha.or.jp

認定歯科衛生士セミナー(オンライン)開催報告

認定歯科衛生士委員会

令和2年度は、台風の接近とCOVID-19の感染拡大に伴い再延期した認定分野A「生活習慣病予防」「摂食嚥下リハビリテーション」「在宅療養指導・口腔機能管理」の3コースの令和元年度認定セミナー後期日程をオンラインと課題学習による方法で、令和3年1月9日(土)～2月21日(日)に実施しましたのでご報告いたします。

なお、東京歯科大学委託の「医科歯科連携・口腔機能管理」、徳島大学協力の「糖尿病予防指導」、広島大学に委託して開催する予定であった新設された「歯科医療安全管理」は、残念ながら中止となりました。

生活習慣病予防(特定保健指導－生活改善指導担当者研修)コース

生活習慣病予防コースでは、受講修了後、認定審査会の合格をもって、日本歯科衛生士会の認定である「認定歯科衛生士」を取得、併せて厚生労働省が定める「食生活改善指導担当者」と認められる。

研修内容は、「食生活改善指導担当者研修プログラム(厚生労働科学研究班監修)」に基づき、生活習慣病予防にむけた総合的な保健指導力の習得のため、講師は第一線で活躍する医師、歯科医師、保健師、看護師、管理栄養士が担当した。「メンタルヘルス」「社会環境からみた健康課題」「生活習慣病予防のための支援方法および禁煙サポート」「栄養・食生活の基礎知識とライフステージ別栄養教育」「運動と健康」「メタボリックと口腔保健」などの講義から、健康に対する考え方と個人の生き方に寄り添う支援方法や技術を学ぶ。研究討議についてケーススタディを選択し、食生活改善指導についてのレポート提出とした。

前期研修は令和元年8月24日、25日、後期研修はCOVID-19の影響により令和3年1月に延期されたうえオンライン研修となり、インターネット環境が整っていない受講者には不自由な面もあったが全員受講を完了した。

具体的な感想には、「書籍だけでは得られない、また普通では聞くことのできない有名な先生からの多方面の専門的な生活習慣予防の講義が受けられた」「生活習慣病について学べ、歯周病と全身疾患、生活習慣病との関連について、今まで以上に指導に生かせる」「学生時代に習得できなかった内容である」など多く寄せられた。

当初、受講者の勤務先は企業や行政が主であったが、近年は、一般歯科医院(在宅診療含む)、障害者センター、リハビリテーション病院等と、幅広い業態からの受講者が増えてきている。

実績豊富な講師陣で手厚く構成された本研修を、すべての歯科衛生士が受講することを希望する。

摂食嚥下リハビリテーションコース

摂食嚥下リハビリテーションコース認定歯科衛生士セミナーの内容は、摂食嚥下のメカニズムや咀嚼機能、咬合にとどまらず、病態別摂食嚥下障害・摂食嚥下訓練、アセスメント、摂食嚥下機能評価、リスクマネジメント、栄養管理、摂食嚥下訓練の立案・計画など、摂食嚥下リハビリテーションに関連した多岐にわたる分野を網羅したプログラムとなっている。

今年度はCOVID-19感染拡大の影響により、新しい生活様式に対応した、初めてのオンライン配信によるプログラム実施となった。配信されたプログラムの内容は、病態別摂食嚥下障害、食事外部観察評価、リスクマネジメント、摂食嚥下訓練、問題解決の実践であった。その中には、演習やグループワークに代わる

ものとして、追加資料と演習材料を事前に送付し、摂食嚥下訓練の項目では、とろみ剤を使用した実習、経鼻吸引の項目では吸引カテーテルの挿入演習を、動画と頭頸部矢状断面図を見ながらの自己学習とした。初めてのオンライン配信による認定歯科衛生士セミナーではあったが、受講後のアンケート調査によれば、約8割の受講者からオンラインによる認定歯科衛生士セミナーに対して「よかった」との結果を得ることができた。しかし、まだまだ検討が必要な事項もあり、このアンケート結果を今後の認定歯科衛生士セミナーの運営に生かしていきたいと考える。

受講者の方々にとっては、異例の多い認定歯科衛生士セミナーとなったが、この認定歯科衛生士セミナーで得た知識を基礎として、摂食嚥下リハビリテーションを進める多職種連携のチーム医療の一翼を担うべく、高い専門性を有する認定歯科衛生士として活躍することを切に期待している。

在宅療養指導・口腔機能管理コース

本セミナーはCOVID-19の影響を受けて1年ぶりの再開であり、オンラインによる実施ではあったが待ちに待った再開となった。しかしながら在宅療養指導・口腔機能管理コース(以下、在宅コース 37名)は事前課題の提出、その後の講義聴講後にアクションペーパーや事後課題の提出もあり、研修に費やす期間が長期にわたった。

事前課題は5課題あり、令和2年10月19日～12月10日に各自で取り組み、メールでの提出となった。講師の先生方に課題内容にご配慮いただいたものの、グループではなくひとりで課題に取り組むことは難しいと思われたが、習得の向上を図り、認定の質を担保するうえで不可欠であった。事前課題は、講師に個別に評価していただき、講義聴講までに受講生に返却された。聴講は令和3年1月9日～2月20日であったが、在宅コースはさらに聴講後のアクションペーパーや事後課題の随時提出が3科目あった。また、最後のまとめとなる「在宅療養者への歯科衛生士としての介入」ではKJ法を用いた課題に臨み、事後提出することとした。受講者が長期間、各自で学習に取り組まなくてはならないことに対して、少しでも不安を和らげ理解を深めてもらうため、動画は期間内であれば何度も繰り返し聴講できるように配慮した。

受講者の理解度は事前課題学習、課題提出、講師確認、課題返却、講義聴講およびアクションペーパー、事後課題提出の一連の流れによって得られたのではないだろうか。受講が再延期され、実施方法が変更されたにもかかわらず、途中脱落することもなく全員が修了となった。ひとえに受講者の努力と講師の先生方の多大なるご支援によるものである。従来実施してきた在宅コースの魅力の一つである施設実習が、未実施だったことは非常に残念であった。COVID-19が一日も早く終息し、集合型での研修再開が望まれた。

第24回感染症予防歯科衛生士講習会開催のお知らせ

1 目的

歯科衛生士を対象に、最新の感染症事情、院内感染の予防管理対策や歯科診療所における医療安全管理に関する講習を行うことにより、患者が安心して受けられる歯科保健医療の提供を図ることを目的とする。

2 実施の主体（共催）

公益社団法人 日本歯科医師会
公益社団法人 日本歯科衛生士会

3 協力

一般社団法人 香川県歯科衛生士会
一般社団法人 島根県歯科衛生士会


4 対象

業務に従事している歯科衛生士

5 開催日時・担当県

日程①：令和3年7月4日(日) 13時～16時30分
香川県歯科衛生士会
日程②：令和3年9月12日(日) 13時～16時30分
島根県歯科衛生士会

6 研修方法・定員

日程① Web研修（ライブ配信）100名
日程② Web研修（7月4日の録画映像を配信）100名
集合型研修*併催 50名
※研修会場（集合型研修）  いきいきプラザ島根アクセス▼
いきいきプラザ島根
島根県松江市東津田町1741-3
<https://ikiiki-shimane.jp/pages/2/>

7 申込期間

香川県 6月3日(木)～18日(金)（定員になり次第締切）
島根県 6月3日(木)～8月22日(日)（定員になり次第締切）

8 受講料

無料

9 研修単位

- ・日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 専門研修 3単位（基本研修 特定コース「歯科診療所等における医療安全管理対策」）
- ・日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 認定更新生涯研修 3単位

10 修了証書の交付

講習を修了した者に対し、修了証書を交付します。

【申込方法】

◆ Web研修（共通）

申込先 日本歯科衛生士会
メールまたはQRコードから
お申し込みください。

[申込みはこちら▶](#)



E-mail: kensyu@jdha.or.jp

(1) 件名 感染症予防歯科衛生士講習会 ○月○日
〔「7月4日」または「9月12日」〕

(2) 必要記載事項

- ① 氏名 ② 会員番号(会員のみ) ③ 住所 ④ 勤務先
⑤ メールアドレス ⑥ 講習会当日連絡が取れる電話番号

《申し込みの際の留意点》

- ・メール受信後は日本歯科衛生士会よりメールを返信いたしますので、ドメイン「jdha.or.jp」からのメールを受信できるようあらかじめ設定をお願いいたします。
- ・申し込み後1週間を経過してもメールの返信がない場合は、再度連絡してください。

◆ 集合型研修(日程②のみ)

申込先 島根県歯科衛生士会
昨年中止となった計画を考慮し、

[申込みはこちら▶](#)



限定人数にて実施します。

感染対策のため、先着50名限定で申し込みを受け付けます。
メールまたはQRコードからお申し込みください。

E-mail: shimane@jdha.or.jp

(1) 件名 感染症予防歯科衛生士講習会 島根会場

(2) 必要記載事項

- ① 氏名 ② 会員番号(会員のみ) ③ 住所 ④ 勤務先
⑤ メールアドレス ⑥ 講習会当日連絡が取れる電話番号

《申し込みの際の留意点》

- ・メール受信後は島根県歯科衛生士会よりメールを返信いたしますので、ドメイン「jdha.or.jp」からのメールを受信できるようあらかじめ設定をお願いいたします。
- ・申し込み後1週間を経過してもメールの返信がない場合は、再度連絡してください。
- ・集合型研修は社会的状況により中止となる場合があります。

【注意事項】

- 受講申し込み後、何らかの事情で欠席する場合は、順次他の者に受講の機会を与えますので、その旨を必ず日本歯科衛生士会にメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

日本歯科衛生士会(担当 増田)

E-mail: kensyu@jdha.or.jp FAX: 03-3209-8023

【研修内容】(共通)

13:00～13:10	開会
13:10～14:10	新型コロナウイルス流行の情勢分析 自治医科大学附属病院 病院長補佐 感染制御部長／感染症科(兼任)科長 准教授 森澤 雄司先生
14:15～15:15	院内の感染予防管理 ー新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中でー 大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 副部長・准教授 野崎 剛徳先生
15:20～16:20	歯科における医療安全管理とリスクマネジメントの実践 小田歯科医院 院長 小田 浩一先生
16:20～16:30	閉会

令和3年度 定時代議員会の開催について

代 議 員 各 位

公益社団法人日本歯科衛生士会
会 長 武 井 典 子

令和3年度定時代議員会を下記のとおり開催いたします。

記

- 1.日 時 令和3年6月13日(日) 13時30分～16時00分
- 2.場 所 ステーションコンファレンス東京605
東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー6階
- 3.議 題
- 第1号議案 理事及び監事の選任に関する件
 - 第2号議案 令和2年度事業報告(案)に関する件
 - 第3号議案 令和2年度決算報告(案)に関する件
監査報告
 - 第4号議案 会長候補者の選定に関する件

4.報告事項

- ① 令和3年度事業計画について
- ② 令和3年度収支予算について

理事及び監事候補者

1.理事候補者

定数15名以上20名以内(候補者20名)

(五十音順)

候補者	所属会	ブロック	推薦代表者
石川 奈保美	神奈川県		打 矢 純 子
久保山 裕子	福岡県		天 本 和 子
河野 章江	東京都		近 藤 圭 子
小前 みどり	兵庫県		玉 川 春 美
島谷 和 恵	東京都		須 田 正 江
須山 弘子	東京都		藤 山 美 里
浪岡 多津子	岩手県		山 本 智 美
根岸 麻理	東京都		小 山 圭 子
松本 厚枝	広島県		三 好 早 苗
武藤 智美	北海道		市 川 智 恵
茂木 美保	東京都		吉 田 和 恵
山口 朱見	千葉県		時 田 一 枝
山田 小枝子	岐阜県		高 阪 利 美
吉田 直美	東京都		武 井 典 子
前沢 葉子	宮城県	北海道・東北	人 見 早 苗
長谷 規子	栃木県	関東信越	中 村 美 智 子
田中 千暁	三重県	海 北 陸	丹 羽 友 美
村西 加寿美	滋賀県	近 畿	土 屋 奈 美
矢野 加奈子	広島県	中 国 四 国	倉 本 晶 子
下池 光	宮崎県	九 州	佐 々 木 美 鈴

2.監事候補者

定数2名 候補者2名

候補者	所属会	備 考	推薦代表者
渡 邊 洋 子	東京都		高 橋 千 鶴
今 村 敬	公認会計士	清明監査法人	理 事 会 推 薦



Linking JDHA to IFDH

『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、IFDH発行の『International Journal of Dental Hygiene』の購読をしています。2021年2月号の目次を紹介します。
本会において閲覧することができますので、ご希望の方は国際協力委員会までお申し込みください。(FAX 03-3209-8023)

国際歯科衛生士誌

2021年2月 第19巻1号

総 論

- 歯科矯正中患者の口腔衛生状態の改善のための行動変容テクニックの有効性：系統的レビュー
- 患者の調査と臨床的所見からみた非外科的歯周治療の効果：系統的レビュー
- 矯正治療中患者に対してのモバイルでの口腔衛生指導の有効性：系統的レビュー
- 妊婦の口腔衛生に関連した生活の質の低下：系統的レビューとメタ分析
- 歯周病は大腸癌のリスク増加と関連しているか?：メタ分析
- 義歯口内炎治療のために義歯を電子レンジで消毒する有効性の検証：系統的レビューとメタ分析

原 著

- 振動回転式電動歯ブラシと高周波音波式電動歯ブラシによる歯垢スコア

低下の比較：系統的レビューとメタ分析

- ブラーク減少における電動イオン歯ブラシと手動歯ブラシの臨床比較：無作為化臨床試験
- 身元不明遺体の身体識別に関わる作業に対する歯科衛生士とその学生の意識と行動の調査
- スケーリング中の歯科衛生士の首と体幹の屈曲に対する拡大ルーペの影響—パイロット研究
- 4年制の歯科衛生士教育を選択した学生の動機付けの調査：後ろ向き研究
- 統合失調症患者の口腔の健康認識と窮状
- 北インドの妊婦に蔓延する誤った口腔衛生概念の影響

(国際協力委員会 委員 薄井 由枝 訳)

理事会報告

令和2年度第6回理事会が令和3年3月14日に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和3年度常任委員会活動計画(案)について
- (2) 令和3年度事業計画(案)について
- (3) 令和2年度補正予算(案)について
- (4) 令和3年度収支予算(案)について
- (5) 令和3年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- (6) 令和3年度定時代議員会開催(案)について
- (7) 監事候補者(公認会計士)の推薦について
- (8) eラーニング研修の実施要領の一部改正について
- (9) 新入会員の承認について

報告事項

- (1) 会務報告について
- (2) 監査実施報告について
- (3) 「認定歯科衛生士のMy Note」について
- (4) 日本歯科衛生学会第16回学術大会開催要領について
- (5) 令和2年度 歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業報告について

- (6) 令和元年度「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」修了者アンケートの調査結果報告について
- (7) 第2回「歯科衛生士復職支援・離職防止等研修指導者養成研修事業」運営協議会報告について
- (8) 第1回歯科衛生士教育研修センター運営委員会(広島大学)報告について
- (9) 第1回歯科衛生士の復職支援・離職防止等に関する運営協議会(東京医科歯科大学)報告について
- (10) 事務局職員業務分担(令和3年度)について
- (11) 口腔保健に関する予防強化推進モデルに係る調査研究第3回検討委員会報告について
- (12) 歯科医療提供体制等に関する検討会報告について
- (13) 第3回「地方自治体等の歯科保健医療施策のための状況や各種取組等の把握・収集・分析及び情報提供の在り方検討委員会」報告について
- (14) 第3回ICTを活用した医科歯科連携の検証事業等一式委員会について
- (15) 日本認知症官民協議会 令和2年度第2回認知症バリアフリーWGについて
- (16) 第12回災害歯科保健医療連絡協議会報告について
- (17) 第3回「歯周病予防に関する実証事業」検討委員会報告について
- (18) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について
- (19) 公益財団法人8020推進財団理事会報告について